

学校だより セルリアンブルーの風



北海道函館高等支援学校
第2号
令和元年7月1日発行

新しい時代と共に開校を迎え

校長 立田 俊治

新しい時代である令和元年6月22日(土)に開校式を挙行いたしました。90名近い御来賓の方々をお迎えしましたが、当日まで約2か月間、職員と生徒が一体となって準備を進めてきました。

この度の記念品は、生産技術科が製作した「コースター(木工)」ですが、校名・校章と共に校訓がデザインされています。記念品のメッセージカードは食品デザイン科、それらのラッピングは普通科が担当しました。そして、福祉デザイン科は、各学科を取材して学習の紹介をする掲示物を製作しました。

一番練習を要したのは、生徒と職員全員で行った校歌の合唱です。校歌は2部合唱として作曲されておりますので、生徒は音楽の授業、職員は放課後に練習を積み重ねて、開校式の前週から合同練習を行いました。初回の練習では、低音パートの音量が足りなかったため心配もありましたが、当日は美しいハーモニーで合唱をすることができました。校歌披露が終了すると同時に、北海道教育長様から「すばらしい校歌ですね。」と御好評をいただきました。その他、函館市教育員会教育長様からは、祝辞の中で「入学式に引き続き、生徒の皆さんの姿勢がすばらしい。」「会場に凜とした空気が漂っています。」などの御好評もいただきましたことは、生徒と職員共々が大変励まされたところです。

生徒会長が生徒を代表して「よろこびの言葉」を担当しましたが、「自分に合った勉強ができること。」「新しい学校づくりにかかわれること。」などの思いを伝え、来年度入学する後輩たちが楽しい学校と思える雰囲気をつくりたいと抱負を述べたところ、会場の皆様から大きな拍手を受けました。翌週、私が生徒会長にインタビューをしたところ、当日はすごく緊張したとのことですが、生徒全員で会場設営や受付、案内、接待の活動を行えたことは、すごく思い出に残る大切なことだったと感慨深げでした。

さらに、私が生徒会副会長と書記にもインタビューをしたところ、「掃除は学校が広くて大変でした。」「当日の湯茶を出す接客は緊張しました。」という苦労話もありましたが、生徒全員で事前の準備活動や当日の接客などを行えたことで一体感をもてたことに満足していました。

また、学校紹介DVD放映のナレーションは、当初は二人の生徒で担当する予定でしたが、当日、急遽、Aさんが体調不良のために早退したため、Bさんが一人で担当することになりました。急なことでBさんには大きなプレッシャーとなり、はじめ原稿を読む声が震えていましたが、何とか一人でナレーションをやり遂げ、これも会場の皆様から大きな拍手を受けました。開校式の終了後に、私はBさんに廊下であったので、ナレーションをやり遂げたことにお礼を述べたところ、プレッシャーを乗り越えたためか、ニコニコと笑ういつものBさんの表情に戻っていたので安心しました。

一生に一度、あるかないかという開校式の体験には、それぞれの生徒がそれぞれ感じるがあったと思います。現代は「知識基盤社会」ですが、開校式での生徒の様子から体験を通して「感動すること。」「感性を磨くこと。」が教育では大切なことであると、今一度、考える機会となりました。

開校式に向けた各科の取り組み

普通科…記念品作り(研磨)、記念品のラッピング

生産技術科…記念品作り(木材の接着、研磨、面取り、レーザー加工)

食品デザイン科…記念品作り(研磨)、メッセージカード作成

福祉デザイン科…記念品作り(研磨)、各科の紹介掲示物作成



木材の接着：生産技術科



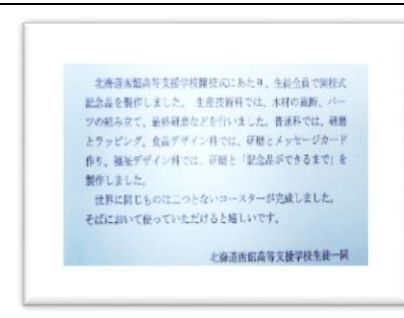
研磨：全科



レーザー加工：生産技術科



記念品完成!(^^)!



メッセージカード：食品デザイン科



ラッピング：普通科